

事業評価シート（2022年度評価結果）

事業名	概要	総合評価	指摘事項	改善に向けての取り組み
基本目標4 山桜の花咲く里事業				
411 山桜を守り育て広める事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名勝・天然記念物の桜の樹勢回復、後継樹の育成に取り組み</li> <li>・里山の整備、山桜の植樹を推進する</li> <li>・山桜の保全活用に取り組み人材を育成する</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度は前年同様に進捗が遅れており、後継樹・保全活用に関わる人材、それぞれの育成が進んでいない。市民の関心を高めるためにも、R6年度に当市で開催予定の「全国さくらシンポジウム」を絶好の機会と捉え、今から市民を巻き込んだ準備を進めて欲しい。また、育成した後継樹や人材の活用方法なども再度よく検討願いたい。</li> <li>・「日本を代表する山桜の里」を目指す上で、後継樹育成やリーダー育成、教育カリキュラム導入、イベントの実施はいずれも有効であると評価できる。イベントの実施に際しては、特に市民の意識向上がポイントになると考えられているので、意識高揚に向けた取組を期待する。</li> <li>・さくらシンポジウム桜川の開催が来年度決定しているため、開催によりこの事業への理解は深まるものと考えられる。シンポジウムへの目玉企画（山桜のネーミングライツなど）を取り入れても良い。後継樹の育成本数がコロナにより遅れているものの長期的な計画として継続することに意義があるものと思う。</li> <li>・企業等の協力を得て飛越した山桜等を買い上げ「山桜千年の社」の整備、山桜の魅力を伝える日本有数の「山桜フォト・動画コンテスト」の開催に取り組んでほしい。加波山市場等で山桜の苗木・益数を販売して普及してほしい。また、さくら餅・リッツが製品化されているが、山桜の葉、花、樹皮を活用した製品開発を要に進めてほしい。</li> <li>・2024年度に天然記念物50周年、名勝指定100周年の記念イベントが開催されるとのことで、桜川市のヤマザクラ施策の集大成として関係各所との十分な連携のもと取り組んでいただきたい。その成果によっては、ヤマザクラを市の政策・観光の中心としてどう捉えていくのかについて抜本的な見直しを含む取り組みとしていただきたい。</li> </ul>	<p>令和6年は、名勝「桜川」指定100周年を迎える年となります。また「さくらシンポジウム」の開催に向けても着々と準備を進めているところであり、市としても固有の地域資源であるヤマザクラを活かした取り組みをさらに力強く推進していく年であると認識しております。「桜川市ヤマザクラ保全活用計画」に基づき、庁内関係課、市内関係団体及び事業者等と連携を図りながら、課題の解決及び今後の展望について熟慮し、事業に取り組んでまいります。</p>
412 山桜の花咲く里事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人ひとりが山桜を育てる活動を通じて、郷土の桜に関心を持ち、郷土愛を持つ人材を育成する</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苗木を育て植樹するまでに4年間の時間を要し、事業目的が若干あいまいになってきているとの報告を受け、事業の見直しも視野に入れるべきと考える。桜川市の山桜がなぜ「日本を代表する山桜の里」なのか？その価値を認めて育てる機会が必要ではないかと考える。</li> <li>・今回担当課からの説明を聞いて、事業目的が若干あいまいになってきており、学校現場の負担となっている側面もある現状が明らかとなった。「児童一人一人が郷土の桜に関心を持ち、山桜を育てる活動を通じて郷土を愛する心を育てる」という事業目的に立ち返り、事業の内容を見直しすべきと考える。見直しの際は、他県の事例も研究しながら、学校内（教師と生徒）の枠組みにとどまらず、保護者や校守（リーダー）人材、行政区も一体となって取り組むことを期待したい。</li> <li>・郷土の桜に関心を持たせ、郷土を愛する心を次世代に育んでいくことは非常に重要であるが、担当課の評価にあるように、目的がすりかわってしまっている懸念がある。体験は大切ではあるが、労力や効果を考えと別の施策への切り替えを検討すべき時期にきていると考える。</li> <li>・郷土史、生態系等（騒がれ）をコンセプトに総合学習を進められることを期待したい。具体的には山桜を中心に総合学習プログラムを再構築し読本を作成してほしい。実体験は重要であり、育った苗木を加波山市場、ふるさと納税等で頒布。上級生は山桜の盆栽づくりを進めてほしい。</li> <li>・教育委員会と連携した特徴ある施策であるが、このように長期的に取り組んでいるにもかかわらず、市外ではほとんど知られていない状況にあると思われる。</li> <li>・教育現場や市側の負担も担当課で支えられる。</li> <li>・学校に応じた子どもの成長に合わせた意義ある施策であるので、市民のなかで十分な認識がなされているのかどうか、それが不十分であれば、徹底する方向に行くのか、見直しする方向でいくのかを検討していくべきと思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童一人一人が郷土の桜に関心を持ち、山桜を育てる活動を通して郷土を愛する心を育てる」という事業目的の達成を目指し、事業内容見直し、桜川保勝会の講話を新たに加えた授業を各小学校で実施してまいります。</li> <li>・これまで4学年で実施していた、3年生で種まき、4年生で苗を学校敷地内への移植、6年生で記念植樹を行うという体験活動だけであった内容を、2学年で実施する事業に見直し、3年生で種まき、4年生で児童が育てた苗を桜川市に譲渡し、桜川市の里山の移植をしていくといった授業内容に変更するとともに、講師による講話を実施してまいります。</li> <li>・講話の内容は、桜川市の山桜がなぜ「日本を代表する山桜の里」なのか、ヤマザクラとシメイヨシノの違い・多様性、桜川市の桜の歴史、ヤマザクラの苗木を育て地域に植樹されていく課程、地域資源としてのヤマザクラなどについて盛り込み、事業の目的や児童の学習のめあてなどを明確にして実施してまいります。</li> <li>・本事業をヤマザクラ課と共に実施するとともに、ヤマザクラに関わる団体とも連携して取り組んでまいります。また、市内外に広く周知しつづけるよう新聞社へプレスリリースを行い、取材していただくなど広く情報発信をしてまいります。</li> </ul>
421 サイクリング利用促進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくば響ヶ浦りんりんロードを活用し、自転車を楽しむ取組を推進する</li> <li>・交通安全教室やマナーアップ教室など、自転車を安全に乗るための取組を実施する</li> <li>・レンタサイクルの充実やサインの設置等、快適な走行環境を整備する</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度の実績と呼べるのは自転車活用推進計画（以下、推進計画）の策定のみで、今年度（R5）も含めてこの2年間、事業が停滞しているように見受けられる。KPI「市内の自転車利用者」の測定も不十分であり、市としてどこを目指しているのかが分かっていない。推進計画（3.2.3）に記載のある隣接市の取組を参考とし、近隣自治体と連携することで、効果的な事業化を進めていただきたい。ヤマザクラや真壁の町並みなど、自転車と相性の良い地域資源が豊富な桜川市だからこそ、積極的な事業展開を期待したい。</li> <li>・本年3月に策定された自転車活用推進計画に基づき、今後、各事業計画が立案、実行されることと思うが、計画ではりんりんロードがテーマに含まれていることから、りんりんロードの利活用に関する事業の優先度を高める必要があると考える。また、りんりんロードの利用状況などを補助指標として加えられないか、検討願いたい。</li> <li>・レンタサイクル施設などハード面とサイクリストをもてなすソフト面の両面での充実が事業成功には必要。ソフト面においては市内の飲食業界などと連携を取りサービスの充実を図ることも検討してほしい。さらに、221滞在型観光事業との運動も考慮すべきと考える。</li> <li>・自転車ネットワークを形成・整備し、自然や歴史資源の魅力を多くの内外の人々が楽しめる環境を地域連携で整備したい。アシスト自転車も活用しながら市民の健康寿命や災害対応に活かしてほしい。イサムノグチの創作等賞や芸術祭、サイクリストと自然・歴史資源の等賞パネルなどをグートウェイとなる岩瀬駅、ロード出発地公園周辺に設置し、動画も流してイメージを高めてほしい。筑波高原などのキャンプ場の活用にも取り組んでほしい。</li> </ul>	<p>令和4年度に策定した「桜川市自転車活用推進計画」に基づき、自転車利用環境を向上させることにも、市の魅力向上につながる施策を展開していきます。市を縦断するりんりんロードを中心に、ヤマザクラや真壁の町並みをはじめとする地域資源を有機的に結び付け、市全体の数多くの資源を面的に活用していきます。</p>
431 桜川筑西IC周辺地区開発整備事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桜川筑西IC周辺地区に医療、福祉、商業等の都市機能の集積を図り、市の中核となる新たな複合都市拠点を整備する</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の将来を大きく左右する重要な事業である一方、社会情勢の影響もあって課題が大きい事業である。特に近年は、自治体の地勢環境によって人口の社会動態や企業立地動向に顕著な差が見られ、当市は厳しい状況にあることは明白であるが、そうした中でも、将来を見据えた開発事業に取り組む姿勢には敬意を表する。今後は、土地買収など地道な業務と並行して、未整備ゾーンの法的規制に関する調整、民間ノウハウの活用など、国・県と連携したといった取り組みが必要と考える。</li> <li>・CCRゾーンの開発には、地方移住を望む高齢者がそう多くはないという現実があることや将来的に要介護者が増えることを想定し、どのように対応するかを十分議論した上で進める必要があると感じられる。</li> <li>・現時点では住宅造成区34区画の分譲が決まり、大和駅周辺の開発も具体化されているが、CCRゾーンなどについての土地利用について時間を要している状況。今後の住宅分譲を考えたこの地域の未来図とセットでの販売が促進策に繋がるものと考えられる。</li> <li>・桜川市にとって重要な中核エリアであり県との連携のもと住宅開発、商業施設等誘致体制を強化し、柔軟に粘り強く活動を展開してほしい。期待を高める、新たな街が出来上がっていくイメージが必要。街のキャッチコピーや山桜や石材等を活かした景観と子育て環境を備えた個性的なまちのデザインを訴求することが大事。北公園整備が始まりまちが出来上がってきたイメージが出てきたように思う。</li> <li>・未買収地の買収等を強力に進め、スケジュールに追いつくようにご配慮願いたい。</li> </ul>	<p>予てより取組んできた長方地区準工業地域内への企業誘致について、商業施設の開発推進に関する協定書を開発事業者等と締結いたしました。また、住宅造成区においては、第1工区34区画の造成に着手、先行予約販売を行っております。開発整備区域内では、地区内幹線道路や大和駅北公園が一部供用開始されるなど、一定のインフラ整備が進みました。このような中、土地利用構想の立案から10年の節目を迎えるにあたり、現状と課題、市場ニーズ等を再整理し事業の見直しを検討してまいります。なお、CCRゾーンについては、公道の整備進展に伴って駐車場用地のニーズが高まっていることから、一部駐車場への転換を予定しております。</p>
434 生涯学習拠点整備事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の公民館利用者のニーズを満たす公民館機能を整備する</li> <li>・潜在的な生涯学習ニーズを捉えた新たな公民館機能を創出する（DXの実現とLXPの構築）</li> <li>・必要十分な蔵書とデジタルミュージアム機能を併せ持つ、先進的な図書館機能を整備する</li> <li>・岩瀬地区の行政サービスの窓口として機能する支所機能を整備する</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合施設の建設工事は順調に進んでおり、今後はR6年11月の開催に向けたソフト面の調整も行うとしている。特に、図書館及び公民館部分は、民間による指定管理方式を採用予定であり、年内の事業者選定を予定していること。これらハード・ソフト両面にわたる調整は、新設組織の「公共施設建設課」が担当しており、トータルコーディネーターとしての役目を発揮することで、素晴らしい施設が完成することを大いに期待している。また、市民の移動手段としてのシェアサイクルステーションの整備も検討願いたい。</li> <li>・図書館を含む生涯学習センターと支所が1つの複合施設に有することは、利便性も高く、有効であると評価できる。今後、施設の管理運営にあたって、指定管理する民間事業者と支所である市の組織との連携が図られ、利用者である市民の立場に立つてスムーズに運営されることを期待する。</li> <li>・機地連りの課題に連携している。図書館、公民館、支所の3つの機能が集まることにより、新たな市民活動を生み出すことも期待できる。生涯学習の実現の場として幅広い年代が利用できる施設は多くの市民が利益を享受出来る理想的な場ともいえる。</li> <li>・全国でも評価の高い石材や山桜を効果的に取り入れたデザインとし、生涯学習・文化拠点施設として内外にイメージを高めてほしい。捨て石を使う方法もある。蔵書は、子育て世代はじめ幅広い世代が楽しめるものとし、また郷土ゆかりの平将門や真壁氏など特徴ある書籍取集も良い。図書館、公民館は運営が重要。捨て石の企画で大きく変わる。図書館の動画コンテンツ制作も公共施設や史跡、街中、加波山市場など幅広く活用したい。</li> <li>・県内市町村で唯一なかった図書館の整備に取り組まれるということで期待が高いので、市民ニーズを取り込んだ有用なものの整備を願いたい。（昨年度と同様の指摘）</li> </ul>	<p>令和5年7月時点で順調に工事が進んでおりましたが、昨今は建設業界全体の人手不足の影響もあり、人材確保に苦慮しながら工事を行っております。また、指定管理者が決定致しましたので今後は関係課である生涯学習課も含め連絡・調整を行い、より良い施設となる様に進めてまいります。今回ご意見を頂いたシェアサイクルステーションについては設置の可能性を含め今後検討を行います。地域の特産物である石材については建築物の内部や外部に効果的に取り入れております。山桜につきましても内部のサインに山桜のイメージを取り込み、効果的に活用することにも市内の山桜についてもPRを行います。また、敷地内には山桜を植樹し、施設を訪れた方が実際に山桜を楽しんで頂ける様整備を行います。市民ニーズに関しましては基本設計を策定する際に市民ワークショップを実施しており、皆さまから頂いた意見を参考に整備を行っております。</p>

評価基準

S：順調に行われており、成果が顕著である

A：概ね順調に行われている

B：成果を上げつつあるが、一部改善が必要

C：継続するためには見直しを要する。

D：休止・廃止の検討を要する（不要）